

丸亀城管理室だより No.20

令和 6 年度の予定



石垣が崩落してから 6 年目です。

崩落した石材の解体・回収が終わり、いよいよ 8 月から石材を積み上げ始めます。その前段階として、足場の組み立てや法面の整形に着手します。

また、転用石材や新石材の製作も、並行して城内グラウンドで行われています。

【石垣積み上げ工事】

- ・ 令和 6 年度は、帯曲輪石垣を標高 20m 地点まで積み上げます。
- ・ また、並行してその前面の盛土工事も行うこととしています。

【転用石材製作】

- ・ 文化財の修復工事であるため、崩落した石材は、崩落前の写真データをもとに、極力元の位置に戻すこととしています。
- ・ しかし、石材が損傷するなどして元の位置に戻せない石材は、加工を施し、転用石材として他の場所に戻し、できるだけ元の石材を使用します。

【新石材製作】

- ・ 崩落により割れたり欠けたりして、転用石としても再利用ができない石材は、備讃瀬戸の島々から新しく石材を調達します。
- ・ 新しく調達した石材は、元通りの形に加工して、元の位置に積み上げます。



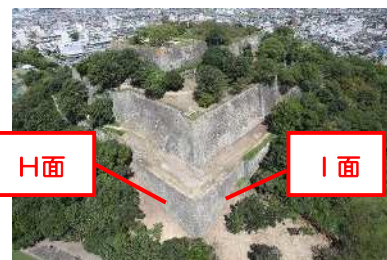
帯曲輪石垣の試験積み

帯曲輪石垣南西（H 面）隅角部の試験積みが行われ、城内グラウンドで行われています。

帯曲輪石垣隅角部は、4 段目までは地中部、5 段目からは地上部です。5 段目以上は崩落前の測量成果があるため、この試験施工では、5 段目の角石を崩落前の位置で積めるように、いかにして地中部の 4 段分を積み上げていくかが大きな目的となります。

まずは、これまでの調査から推測される石材の配列や勾配などをもとに、様々な石積方法を試し、最も上下の石同士の面が合致する方法を探ります。石同士の面が合致し安定感が出れば、さらに上の段を積んでいきます。途中で面が合致しなくなった場合は、下の段まで一度解体し積み直すということを繰り返し、最適な石の積み方を記録していきます。

このようにして、目指すべき姿に石垣が積めるよう、石の置き方や勾配などを慎重に確認しながら作業を行っていきます。



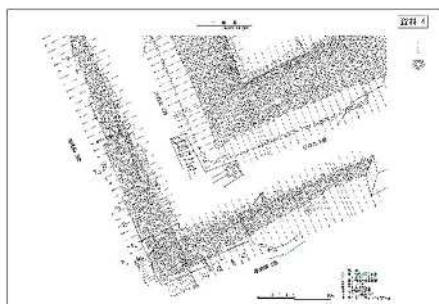
【崩落前の帯曲輪石垣】



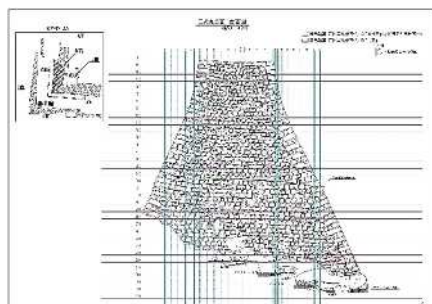
【試験積みの様子】

令和5年度第2回史跡丸亀城跡調査整備委員会

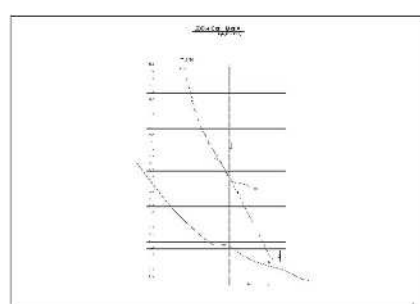
令和6年3月29日に、令和5年度第2回史跡丸亀城跡調査整備委員会が開催されました。石垣復旧事業の報告として、前年11月の石垣復旧専門部会で決定した、今後の復旧方針（管理室だよりNo.19に詳述）を報告したほか、復元図や復旧断面構造、令和6年度の事業予定なども報告しました。



【平面図】

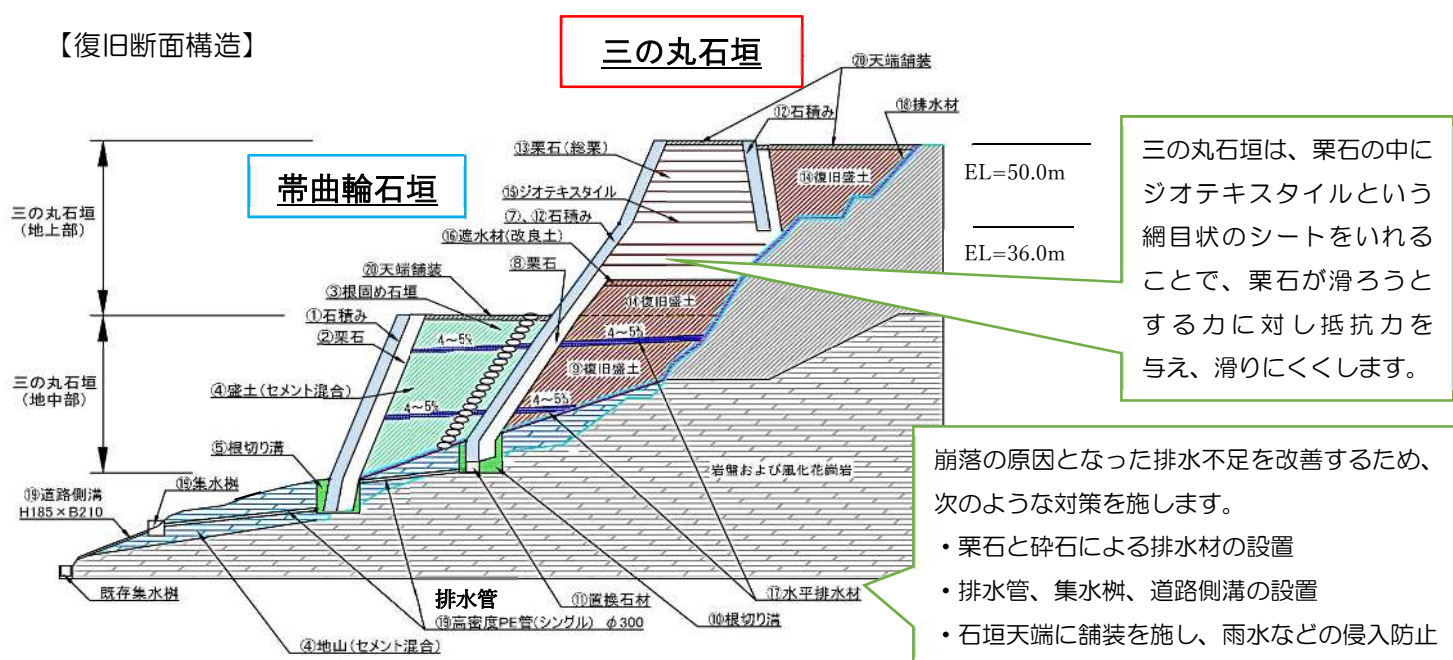


【立面図（三の丸石垣西面（C面））】



【断面図（三の丸石垣西面（C面））】

【復旧断面構造】



丸亀城で「城泊」が開始されます

令和6年7月より、丸亀城で城泊が開始されます。丸亀城での城泊事業は、大洲城（愛媛県）、平戸城（長崎県）に続く全国3例目であり、現存12天守では初となっています。

宿泊施設となっている延寿閣別館は、麻布にあった京極家の屋敷の一部と建具を、城内三の丸に移築した歴史的な建物です。数寄屋風の建築や屋久杉の一枚板が使われた天井など、簡素ながら気品にあふれた仕様となっています。

この延寿閣別館での宿泊のほかにも、入場時には大手一の門での太鼓を打ち鳴らしてのお出迎え、地元県産・丸亀産の食材をふんだんに取り入れた豪華な食事、天守を貸し切ってお酒が楽しめるナイトラウンジなど、価格は高額ですが丸亀城の城泊でしか体験できない特別なプログラムが満載です。下記QRコードから、より詳しい情報がご覧いただけます。



丸亀城城泊公式ホームページ



作成：丸亀市教育委員会 文化財保存活用課
丸亀城管理室 TEL0877-23-2107